

「見立ての手法」株式会社竹藤商店見学会

●開催日:令和6年7月27日 ●参加者:13名

「外構・家具」このところの建築費の高騰により真っ先に削減候補。想いを込め図面を描くも実現に至らない事多く、半ばやむなし感がある。しかしながら、何か習得出来ないかと見学会に出向いた。

「竹藤商店」造園資材を扱う卸売問屋。竹・石など、普段用いる材料はもちろん、初めて知る素材も。職人育成に注力し、当日はドライストーンウォーリング(モルタル等の接着材料を用いない英式伝統石積)を拝見。我々建築家が調査・打合せに使用出来る資料室には、造園・建築に関する図書が揃い見入ってしまう。

高見 紀雄氏(日本庭園協会 愛知県支部長)による庭の講義。映画「ロビンソンの庭」に感

銘を受け映画業界から庭師を志す。前職や、鉄廃材が点在する刈谷で育った経験より培われた視点や発想は、斬新で非常に面白い。

- 成育的にも緑と相性の良い鉄の使い方
 - パーゴラを活かした住宅密集地の視線対策
 - 風土・樹木の強弱を利用した植栽計画
- など、膝を打つ内容に溢れ今にも試したくなる。

「マテリバ」ワーク〇キューブ平野氏による庭を中心に暮らすスモールハウス。建築家と職人有志が腕の見せ場と造り上げた数々の仕上げや納まりは、見所が多く参考になる。

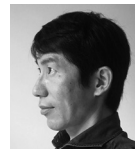
今後の外構計画が楽しみとなる、とても有意義な見学会であった。関係の方々には感謝の念に堪えない。



株式会社竹藤商店(小牧市小牧原新田1622)

そして冒頭の悩み、高見氏の「見立て」という言葉より、同名の本を思い出した。それが手掛りとなるかもしれない…

さて、この原稿を書き終えたので今から「ロビンソンの庭」を覗いてみよう。



中川 竜夫 (JIA愛知)

アーキサイエ建築設計事務所

三重地域会員の愛知県内建物見学会

●開催日:令和6年7月19日

7月19日(金)に三重地域会会員研修会にて愛知県内の建築物を見学いたしました。見学場所は以下になります。

- ①高架下オフィス
設計者:マルアーキテツ
- ②名古屋造形大学
設計者:山本理頭設計工房



名古屋造形大学

- ③烏森オフィス
設計者:マルアーキテツ

- ④なごのキャンパス
設計者:(株)Open A
今回見学した建築物は、鉄道の高架下、鉄道に挟まれた土地、地下鉄線の駅の上等、鉄道や駅が近く、建物形状に制限がかかる建築物が多かったです。その中で、名古屋造形大学が、特に印象に残りました。地下鉄名城公園駅が敷地下に通るなか、その駅をまたぐようにして4つの棟をつなぐ88m x 88m x 天井高7.5mのスタジオは、5種類の研究領域をまとめています。そのスタジオは、ワンルーム空間であり、研究室のような閉じた空間がないため、違う研究領域を跨ぐことができ、研究領域間の生徒の交流が促進されていました。様々な形態制限の中で、利用者によるその制限を

感じさせず、ファサードや動線計画を設計することは、建築設計において、とても重要であり、その与条件を最大に活かされた建築物は魅力的になると思いました。

最後に私は、建築物を実際に見て体験することが好きで、よく1人で各地へ出かけます。見学会では、先輩方と一緒に行動するため、建築の知識をご教示頂いたり、逆に知識を共有したりと、1人では得られない体験が見学会にはあるため、今後も積極的に参加したいと思いました。この度は、大変貴重な機会をいただきありがとうございました。



伊藤 大智 (JIA三重)

日新設計